

第9回 統計品質改善会議 議事概要

- 日 時：令和6年8月30日（金）15:30～
- 場 所：中央合同庁舎3号館 国土交通省 総合政策局AB会議室
- 議事概要：以下のとおり

【資料の説明】

以下の各議事に関する資料を事務局が説明

- 議事1 「国土交通省統計改革プラン」の主な実施状況の報告
- 議事2 建設業連統計の品質改善に向けた検討
- 議事3 統計品質改善会議の構成員の変更

【構成員からの主なご発言】

<議事1：「国土交通省統計改革プラン」の主な実施状況の報告>

- 的確に取り組んでいる印象であり、成果も着実に出ている。
- 業務マニュアルを改善した結果、現場で改善に取り組んで良かったという声はあるか。
- （事務局）一部であるが、マニュアルがビジュアル化され、人事異動後でも分かりやすくなったという声は聞こえてきている。
- 業務マニュアルのレベル1が解消されたのは、担当者のご尽力のおかげである。日頃の業務を行いながらの作業は大変だったと思う。次の段階として、レベル2の解消に取り組んでいただきたい。自分も協力する。
また、オンライン回答率の向上のための方策として、オンライン回答のメリットを記載するとあるが、オンライン回答に限らず調査に協力するメリットが報告者に伝わると協力が仰げると思う。一緒に考えていきたい。
- 業務マニュアル自体の評価をしているケースを他で見たことがない。目に見える形で示される仕組みとしたことは斬新で素晴らしい。統計の品質を改善することが目的であると思うので、マニュアルを作成したことで安心することのないように取組を進めていただきたい。
- 改善されたマニュアルを着実に運用に乗せ、そのサイクルを回していくべきである。その際、調査担当者によっては、加筆の方が良いなどの意見が出るはずなので、それによってさらに良いマニュアルになると思う。担当者が異動する際には、必ず業務マニュアルを加筆するなど、業務マニュアルを改善し続けるサイクルを回してほしい。オンライン回答率の向上については、これ以上の取組が難しい面があると思うが、スマートフォンで回答する案が考えられると思う。
- 他省との意見交換において得られた好事例のうち、国交省が導入すると良いと思うものを教えて

いただきたい。

- (事務局) 他省では、PDCA の点検・評価の実施の際、担当課と省全体の企画ラインと一緒に実施し、また、担当課による自己点検だけでなく、第三者としても内容を点検できるような仕組みを整えている取組があった。このような他省の取組を参考として、資料1の6頁の今後の取組の方向性に示す「PDCA サイクルの強化」として取り組みたいと考えている。
- 資料1の1頁に企業系のオンライン化率が100%とある一方で、4頁のオンライン回答率は60%となっているのはなぜか。
- (事務局) 1頁のオンライン化率はオンライン調査を導入している割合である。4頁のオンライン回答率は、オンラインにより回答された割合を示している。
- 外部委託はプロセスの合理化として非常に良いものだと思うが、外部委託先が必ずしも正確に業務をこなせない可能性もある。問い合わせ対応を外部委託するのであれば、対応が均一となるよう業務マニュアルに記載する必要があるし、集計業務を外部委託する場合にも、外れ値の処理方法等で誤りが生じる場合がある。外部委託の際は、発注者からの指示を徹底することが重要である。また、外部委託業者が変わった際に問題が生じないよう国交省側で体制を整えておく必要がある。
- 他省との意見交換において知見を得られた内容に関して、国交省として取り入れるか取り入れないかは別として、統計品質改善会議で共有していただきたい。
- 業務マニュアルの改善に関して、どのレベル以上に上げることが難しいのかを把握するため、どのレベルからどのレベルに上がったものが何パーセントあったのかという情報を提供していただきたい。
- (事務局) それらのデータがあるので、後日整理して提供する。
- オンライン回答の場合には回答がやや雑になることが考えられる。回答時間があまりにも早すぎるものなどに対する対策はなされているのか。
- (事務局) 回答時間を確認し、さらにご指摘のような対策を行っているものがあるかまでは把握していないが、オンライン回答の場合には、入力時の誤り防止のためのエラーチェック等を設定できるため、桁間違い等の外れ値を回避できる対策は行っていると考えている。
- 意識や意見の調査の場合にはやや雑な回答を防止するための対策がなされるが、数値の正確性を求める統計調査であれば、事務局からの回答のとおりで良いかと思う。
- せっかく人材育成に取り組んでも、人事異動によって1~2年で入れ替わる。身につけた統計知識を活かせる部署であれば良いが、そうならないこともある。人事評価に反映するか、再度統計部門に戻ってくるような人事配置としていただきたい。
- 国交省のHPは統計を探し難い。せっかく統計の品質を改善しても、ユーザーに見てもらえなければ意味がない。特にこの統計がどのように作成されているか(統計作成プロセス)を探るのが大変である。是非、改善していただきたい。
- かつては、各府省で統計毎に工夫し、見やすく利用しやすい形で公表されていたが、e-Statに一元化されたことにより個別の工夫がなくなり、使い勝手が悪くなった。
- 厚労省や経産省のHPは比較的分かりやすい。それらを参考にしてどのような構成にすれば良いかを検討してみるとよいと思う。

- これまでに国交省の統計の品質改善に2年取り組んできて、ある程度軌道に乗ったので、次の取組に進んで良いと思う。その1つ目としてDX化がある。担当課に任せるのではなく、統計品質改善チームからも意見を提案する意見交換の場を持っていただきたい。
- 「使われる統計」として、政策現場における統計の使われ方やニーズを把握することがより良い統計を作成することに繋がる。政策現場と統計作成部署が意見交換していただきたい。

<議事2：建設関連統計の品質改善に向けた検討>

- 建設業許可業者の約47万業者分の推計を行う上で、建設業許可業者のうち、実際に活動を行っている事業者がどの程度であるかを把握しておく方が良いのではないか。

<議事3：統計品質改善会議の構成員の変更>

(特にご発言なし)

以上